

**近畿自動車道紀勢線
「新宮～大泊」
計画段階評価
意見聴取結果**

国土交通省 中部地方整備局 近畿地方整備局

平成24年8月3日

目次

1. 意見聴取の概要	1
2. アンケートの広報の状況	3
3. 調査結果のまとめ（案）	4
4. アンケート結果	5
5. 地域代表者ヒアリングの結果	12
6. 市長・町長への意見照会の回答	14
7. 知事意見	16
8. アンケートの結果報告（速報版）	17

1. 意見聴取の概要

・意見聴取はアンケート及び地域代表者ヒアリングなど、以下の内容を実施した。

●意見聴取の概要

実施項目	実施期間	回答方法	実施概要	回答状況
地域住民アンケート	平成24年6月16日(土) ～7月1日(日)	①郵送回収	無作為抽出9,747世帯への郵送配布・回収	回答数:5,019(51%)
		②投函BOXによる回収	各市役所・町役場等に投函BOXの設置	回答数:1,527
		合計回答数:6,546		
道路利用者アンケート	平成24年6月23日(土) ～7月1日(日)	①インターネットでの回答	WEBモニタ会員を対象としたWEBアンケートを実施	回答数:725
		②道の駅での聞き取りアンケート	道の駅(熊野きのくに・パーク七里御浜・紀宝町ウミガメ公園)で聞き取りアンケートを実施	回答数:320
		合計回答数:1,045		
事業所・トラック協会会員企業アンケート	平成24年6月16日(土) ～7月1日(日)	郵送回収	三重県熊野市、御浜町、紀宝町、和歌山県新宮市の全事業所[約3,092事業所]への郵送配布・回収	回答数:1,589(51%)
			三重県・和歌山県トラック協会会員企業[約940事業所]への郵送配布・回収	回答数:427(45%)
			合計回答数:2,016	
地域代表者ヒアリング	平成24年6月20日(水) ～6月28日(木)	ヒアリングによる意見徴取	4会場で地域の代表者へのヒアリングを実施 ①熊野市:6月20日(水) 参加者約12名 ②御浜町:6月21日(木) 参加者約14名 ③紀宝町:6月28日(木) 参加者約16名 ④新宮市:6月28日(木) 参加者約17名	
			広域な視点での意見の聴取 ・日本旅行業協会 ・日本チェーンストア協会	
地方自治体への意見照会	平成24年7月3日(火)	文書による意見照会	熊野市、御浜町、紀宝町、新宮市への意見照会	

1. 意見聴取の概要



戸別配布

市町名	世帯数	配布数
熊野市	9,008世帯	2,692部
御浜町	4,000世帯	1,244部
紀宝町	5,153世帯	1,541部
新宮市	14,063世帯	4,270部
計	32,224世帯	9,747部

企業配布

市町名	企業数	配布数
熊野市	893企業	846部
御浜町	1,661企業	1,650部
紀宝町	319企業	304部
新宮市	335企業	292部
計	3,208企業	3,092部

回収箱設置箇所

熊野市役所	本所、紀和総合支所、神上出張所、育生出張所、五郷出張所、飛鳥出張所、荒坂出張所、新鹿出張所、上川出張所、西山出張所
御浜町役場	本所、尾呂志支所、中央公民館、神志山連絡所
紀宝町役場	本所、生涯学習センターまなびの郷、社会福祉協議会(鶴殿事業所、神内事業所)、紀宝町立鶴殿図書館、紀南特別養護老人ホーム組合立亀楽苑、保健センター、商工会(役場分庁舎)、紀宝町立相野谷診療所
新宮市役所	本所、三輪崎支所、高田支所、熊野川行政局
和歌山県	東牟婁振興局新宮建設部

2. アンケートの広報の状況

インターネット及び役場等へのポスター掲示・ビラの配布等、アンケートの広報を実施した。

●インターネットによる広報

◆アンケート実施の案内を掲載したホームページ

- ・中部地方整備局、近畿地方整備局
- ・紀勢国道事務所、紀南河川国道事務所
- ・三重県、和歌山県
- ・熊野市、御浜町、紀宝町、新宮市

○紀勢国道事務所HP



●ポスター掲示等による広報

◆マスコミ記者会見

○記者会見状況写真
(6月15日 熊野市政記者会)



◆防災無線による周知

○防災無線の写真



◆ポスターを掲示した箇所

- ・市役所、町役場、公民館、道の駅等、約70箇所にポスターの掲示及びビラを配布した。

○紀宝町役場



○道の駅パーク七里御浜



3. 調査結果のまとめ(案)

● 調査結果まとめ

◇ 道路整備に関する関心について

- ・郵送配布したアンケート回収率は**約51%**であった。

◇ 現状の道路について

- ・対象地域においては、台風や豪雨等の**災害時に地区が孤立**してしまうこと、国道42号の**代わりとなる道路がない**ことへの不安を感じる声が非常に多い。
- ・**高度な医療ができる病院が遠い**ことへの不安感も多い。
- ・対象地域には高速道路がないため、**他地域への移動時間がかかる**ことや、**新宮市内や熊野川渡河部での渋滞**に不満を感じている。

◇ 災害時に強い道路の必要性

- ・災害に強く、時間短縮効果のある**新たな道路を求める声は全体の約9割**を占める。

◇ 整備効果について

- ・高速道路に期待している効果は、「**災害発生時の物資輸送や復旧の支援**」、「**津波発生時の避難場所**」、「**国道42号の通行止め時に代わりとなること**」、「**高度な治療が可能な病院への搬送時間短縮**」、「**周辺地域への所要時間短縮・スムーズな移動**」であり、いずれも**約9割の人たちが期待**している。
- ・**天候に左右されない移動**、県外へのアクセス幅の拡大による**ビジネスチャンス、企業誘致**、熊野古道等への**旅行者の増加**にも期待されている。
- ・整備された場合には観光やレジャーで来訪機会が増えると思うという道路利用者が多い。

◇ ルート帯について

- ・ルート検討においては、**災害時の物資輸送・復旧支援への配慮**、**津波時に避難場所として利用できること**、**スムーズに移動できること**、**早く開通できること**が強く求められており、自然環境、歴史的・文化的遺産(景観)、整備費用を小さくすることにも配慮すること。
- ・**異常気象時の通行止めの解消**や地域資源を活かした**道路からの景観にも配慮**すること。
- ・**海側は、集落に近くて利便性がよい**。

◇ IC配置について

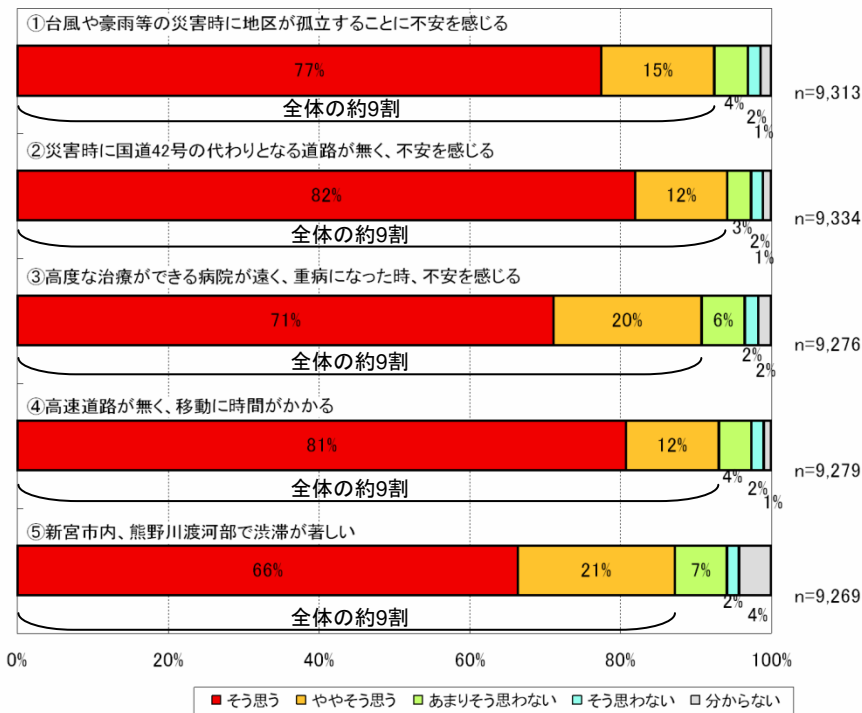
- ・インターチェンジの配置検討においては、**主要な道路に取り付き**、**病院・消防署に近いこと**、**市街地、国道42号に近くに配慮**すること。
- ・**産業・観光の振興**が図られるとともに、**生活道路としての利用**にも配慮すること。
- ・国道311号など、**主要な道路**に設置して欲しい。
- ・**病院に近いところ**に必要。

4. アンケート結果

(1)対象道路の現況と課題について

- ・全ての設問に対して、“そう思う”、“ややそう思う”が全体の約9割の回答となった
- ・自由意見としては、災害に対する意見、早期整備を望む意見が多い

●Q1: 対象地域の道路について、あなたはどのように思われますか？



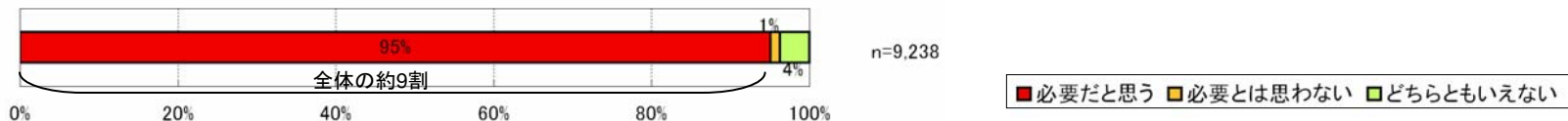
○自由意見の抜粋

- ・大雨や台風の時、国道42号は通行止めになる場合が有り、食料、病院への移動が出来できなくなり、非常に困る。早く高速を必要とする。
- ・昨年9月の大雨災害の時に地域の孤立感を強く感じた。予想される大地震はもっと、ひどいだろうと思うと早く国道42号以外の自動車道を強く要望する。
- ・新宮医療センター等へも週1回程度行くが新宮市内の渋滞が多い又信号、駐車、停車等も多く不便である。
- ・道幅がせまい道路を大型車が通る際、怖く感じる時がある。
- ・高速道路でなく、バイパスのような道路の方がいいと思う。インターチェンジを作ったり、工事がおおごとになっている。通行する者は年寄りも多くなるのでスピードを出す事が当り前の道路はあぶない。後ろから、せつつかれて走るのはいやだ。
- ・現在の場所については特にバイパス、オレンジ道路があり少し安心感があるかなと思う。

(2)災害に強く時間短縮効果のある道路の必要性について

- ・災害に強く時間短縮効果のある道路は必要だとの回答が全体の約9割以上となった

●Q2: 災害に強く時間短縮効果のある道路は必要だと思いますか？

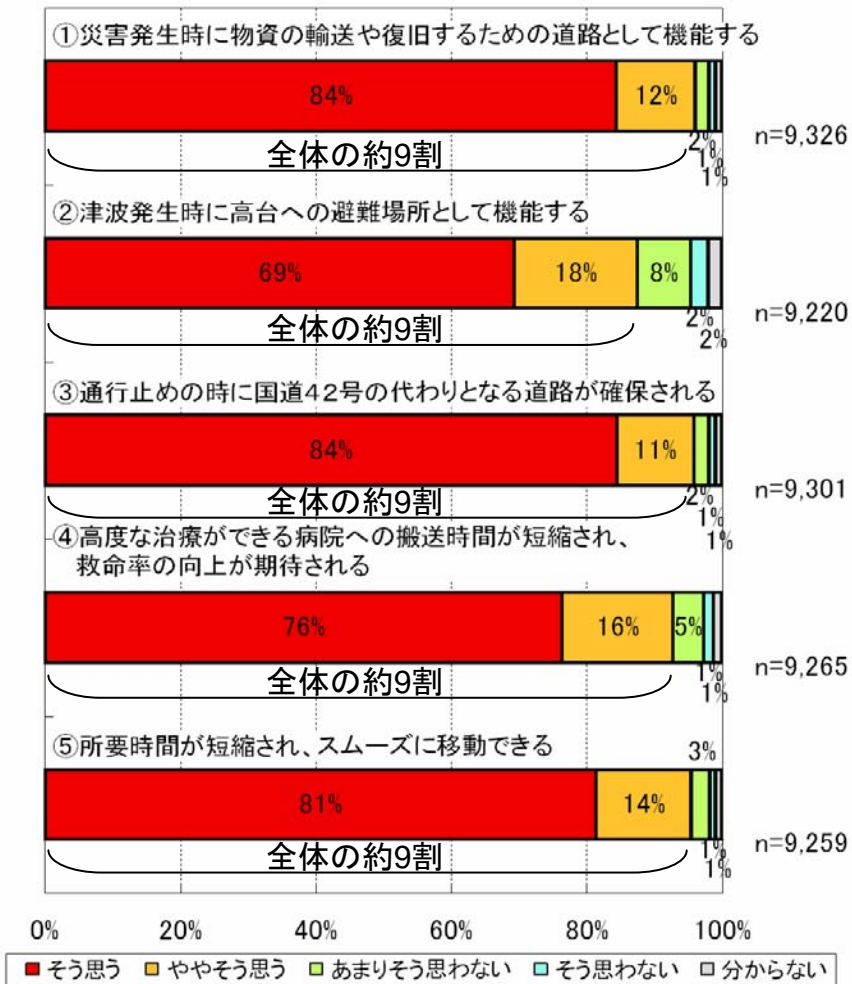


4. アンケート結果

(3)近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)の効果について

- ・全ての設問に対して、“そう思う”、“ややそう思う”が全体の約9割の回答となった
- ・自由意見としては、所要時間の短縮が期待される効果の意見が多い

●Q3: 近畿自道車道紀勢線(新宮～大泊)が整備されることにより期待される効果として、あなたはどのように思われますか？



○自由意見の抜粋

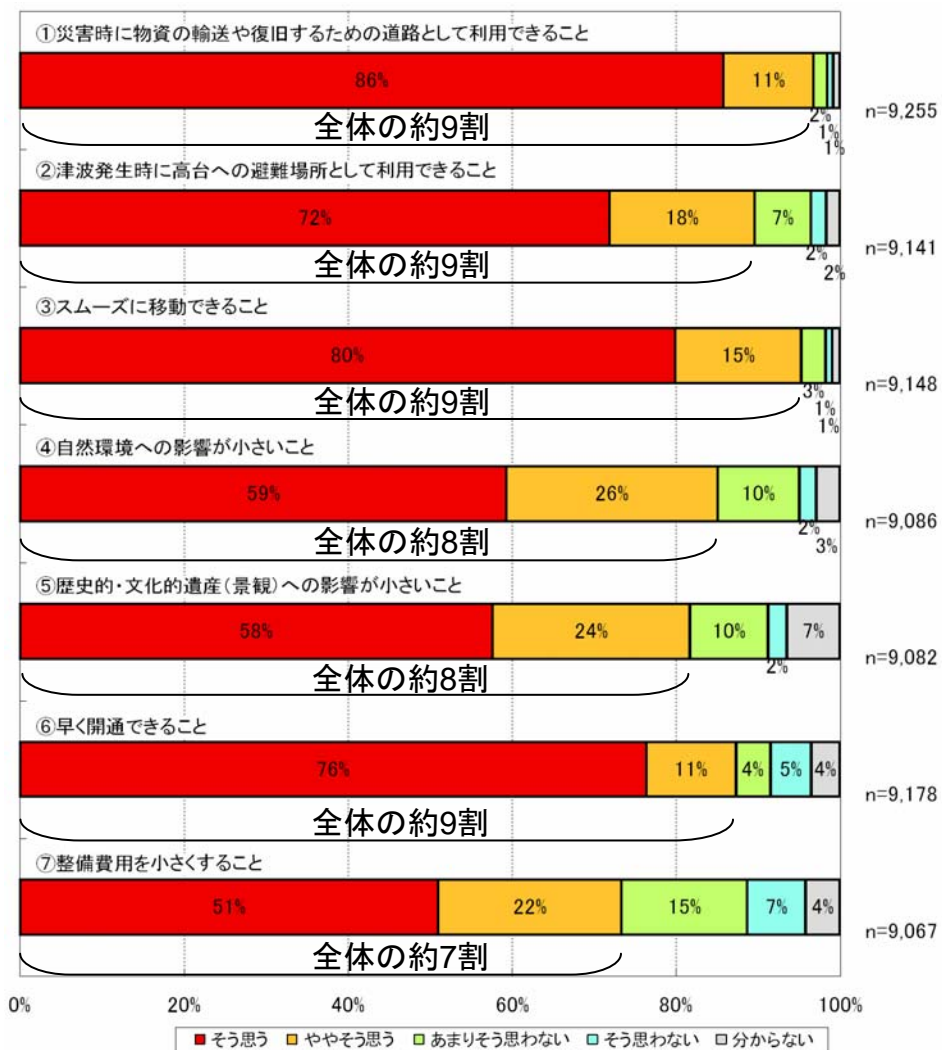
- ・名古屋、大阪方面へ短時間での往来が出る様になり、この地方の観光、経済発展に期待する。
- ・産業の発展(アクセスが良くなれば産業は発展する、若者の流失の歯止めにもなる)。各所への移動時間の短縮(観光客の増加、人間の往来の増加)。災害時の人移動・物資輸送などの国道42号のバックアップ・緊急医療時の時短。
- ・災害発生時、支障無く使えれば域外からの救援、域内の移動・救援や情報収集・連絡に大いに有効であると考えられる。
- ・津波発生時の一時避難場所としても利用できる。
- ・災害を含めた、通行止の場合の代替道路となること、一番、期待されることだと思います。
- ・道路が整備されたら仕事もふえないかなあ。観光客が増えたらいい。温泉や熊野古道、熊野三山もあるし。熊野大花火大会(8/17)渋滞が緩和されないかな。
- ・地震発生から10分～15分で津波が来ると言われている為、高速道路をすぐに避難所にするには、無理が有ると思われます。
- ・新宮、大泊間は地元民としては利用しないと思う オレンジ道路もあるし、災害時に普段と同じ生活をしようと思う神経が理解できない。

4. アンケート結果

(4) 紀勢線(新宮～大泊)のルート検討に配慮すべきこと

- ・全ての設問に対して、“そう思う”、“ややそう思う”が全体の約7割以上の回答となった
- ・自由意見としては、早期整備できることの意見が多い

●Q4: 近畿自道車道紀勢線(新宮～大泊)のルートを検討する際、どのようなことに配慮すべきだと思いますか？



○自由意見の抜粋

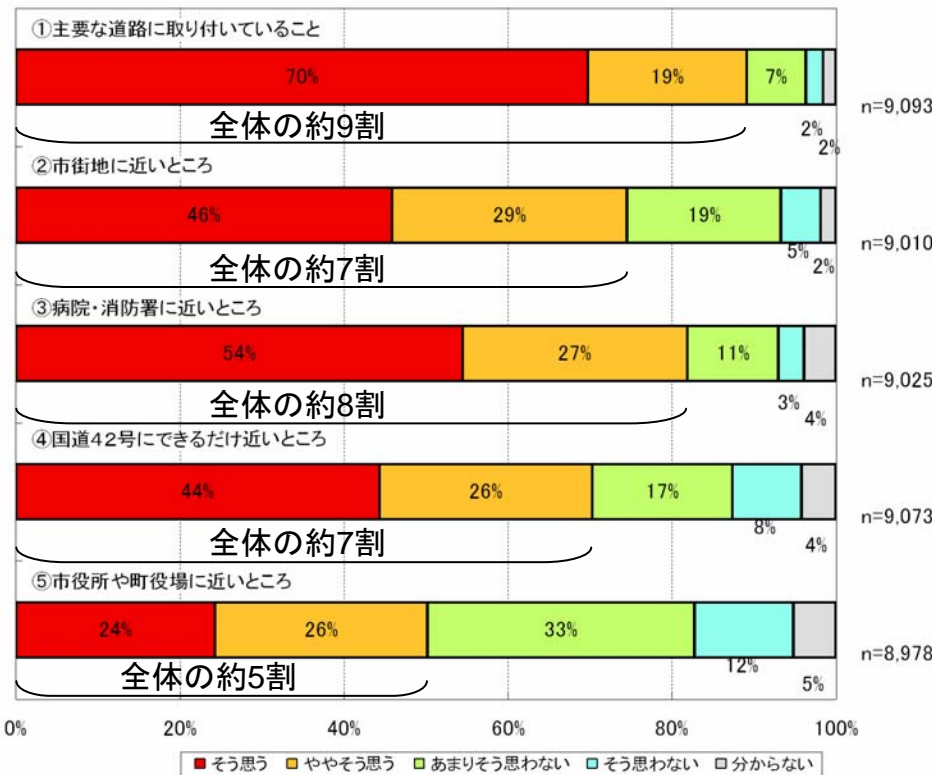
- ・早期開通が重要。整備費用よりも災害や救急面での効果を優先すべき。
- ・災害時にもスムーズに利用できる事(復旧作業や物資輸送)。津波発生時、国道42号(現在)から高速へ入りやすくする。
- ・可能な限り、海側を通る方が避難場所として機能する。
- ・熊野古道や自然に配慮した道路作りを考えてほしい。
- ・避難場所として利用するならば、そのための連絡通路をしっかりと検討していただきたい。
- ・山ルートは難しいし、工事費用も高額になり心配。
- ・トンネル又トンネルではなく、七里御浜の景観も楽しめる観光ルートとしてほしい。
- ・自動車道が出来ることにより、地域によっては街がさびれてしまうこともあり得るので、その点を考慮して道路を作る工夫が必要だと思う。
- ・一番海よりの海側ルートが最適と考えます。アクセスが不便では、だめ。長いトンネルばかりだと、火災発生時に命が守れない。
- ・ルートについては、一長一短あるが、壊れる事がなければ市街地に近い方がよい。津波の時に人が避難できる、丈夫で高さのあるもの。山側より海側の方が費用が安く早く開通できる。
- ・津波等による災害発生が心配なので、海岸ではなく、山間部の高台に道路を計画した方がよい。

4. アンケート結果

(5) 紀勢線(新宮～大泊)のインターチェンジ配置検討に配慮すべきこと

- ・①主要な道路に取り付いているところ、②市街地に近いところ、③病院・消防署に近いところ、④国道42号に近いところ、に対して“そう思う”、“ややそう思う”が全体の約7割以上の回答となった
- ・自由意見としては、災害に配慮すべきとの意見が多い

●Q5: 近畿自道車道紀勢線(新宮～大泊)のインターチェンジ設置を検討する際、どのようなことに配慮すべきだと思いますか？



○自由意見の抜粋

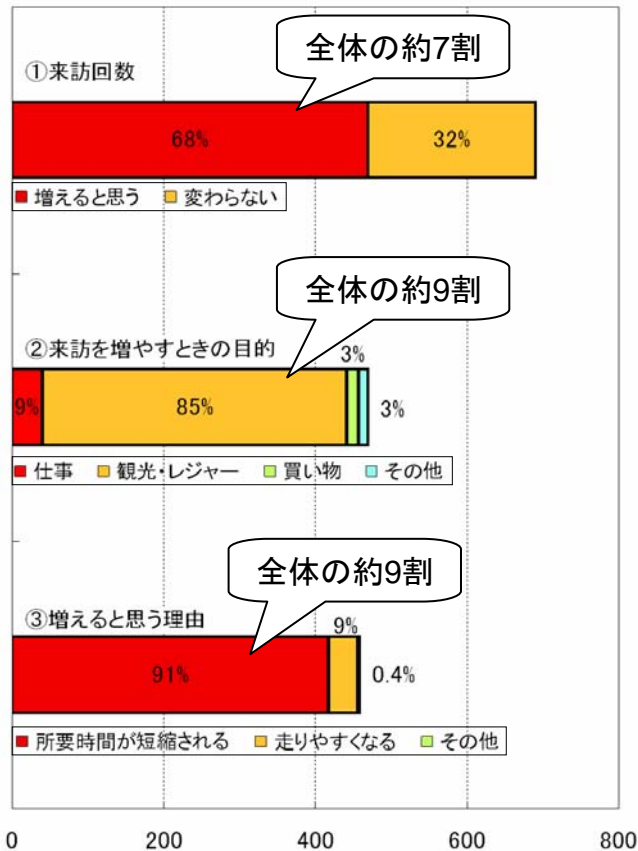
- ・災害(特に津波)対策として、高台の代替として、利用できるように、市街地(住宅密集地)に近いところに、必要ではないか。
- ・国道42号に近くなくても、なるべくインターを多くつけて頂ければ問題はないと思う。特に病院、消防署等は災害時に最も道路が必要なことから自動車専用道路が大切と思う。
- ・幹線道路の国道42号に平行して走らせるのが重要。当然インタチェンジも国道42号に接続。
- ・市街地に近いほうが町の活性化にもなると思います。
- ・地域住民がより利用するICの設置を希望します。国道311号と接合するICの設置を願います。
- ・市街地、病院、消防署、国道42号、市役所いずれにしても海側に建設すれば場所がいくらかも有る。
- ・熊野～新宮間の中間地点と熊野川の両岸付近に設置することにより利便性の向上に努めてほしい。
- ・ICは絶対に市街地近くに設置しない。近くに設置すると、結論を出すまでに時間が掛かり、工事費も増大する。郊外に設置すると、ゆったりと土地の確保ができ、スピード決着、安価。アクセス道路をうまく設計・改良設計をすれば不便ではない。
- ・走りやすい道にさえ出れば今よりずっと良くなると思うので、あえて市街地や病院のそばである必要性はない。

4. アンケート結果

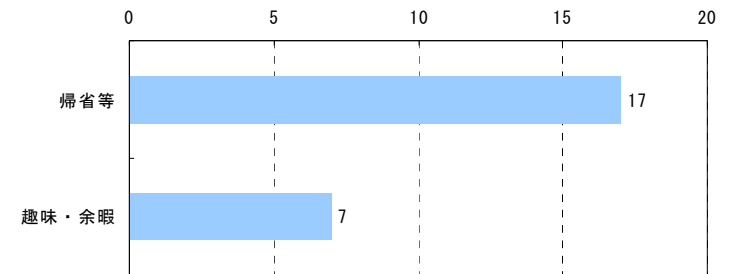
(6)近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)が整備された場合の来訪状況について (対象は道路利用者[WEB、道の駅での意見聴取])

- ・「来訪回数が増えると思う」が多い
- ・来訪を増やすときの目的は「レジャー」が多い
- ・増えると思う理由は「所要時間が短縮される」が多い

●Q6: 近畿自道車道紀勢線(新宮～大泊)が整備された場合、来訪を増やそうと思えますか？



○来訪を増やすときの目的の自由意見



有効回答数 n=24

○増えると思う理由の自由意見の抜粋

- ・高速のドライブインも楽しみ。
- ・観光関係の仕事が増えるから。
- ・日帰りで行きやすくなるから。
- ・国道42号はトラックなどに引っ張られて、対面通行なので追い越しもかけられないので時間がかかる。

(7)近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)が整備された場合の企業活動への影響・期待 (対象は事業者のみ)

・時間短縮の効果を期待する意見が最も多い。次いで、「企業活動圏域の拡大可能性」、「観光集客数の増加」を期待する意見が多い。

●Q7: 近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)が整備された場合、企業活動への影響・期待を具体的にお書き下さい。

●自由意見の抜粋

- ・配送時間が正確にお客様に連絡することが出来る。
- ・取引先への訪問が時間短縮されるので、仕事の効率が上がる。
- ・県からの情報や地域外の就業者の雇用が容易にできるようになると思われる。県外へのアクセス幅がひろがり、ビジネスチャンスが生まれる。
- ・事業の範囲が広がり収益に繋がると期待しています。
- ・世界遺産、熊野古道、熊野三山を中心にした観光がますます開かれるよう期待します。新宮港を活かした海から山からの発展に期待します。
- ・国道42号が止まると物流がストップしてしまうので、この道路が整備されると、天候などに左右される心配がなくなる。
- ・災害時の緊急道路として使用できる。(医療用酸素等を扱っているため)
- ・高速がついて良い面と悪い面があると思います 確かに災害時は、必要かもしれませんが名古屋から日帰り圏内になってしまい滞在型の客が減ってしまうとか、従来の国道42号添いの店舗はさびれてしまうとか わざわざ時間をかけて来るから聖地としての熊野ではなかったのか...高速が景観を
- ・他所からの人口流入により地元経済にプラスとなり、企業誘致がしやすくなると共に、地元食材の販売拡大につながる。
- ・長時間労働(トラックの運転時間)改善につながるので、出来るだけ早期の整備をお願いしたい。
- ・スピードと確実性があたりまえのように求められる社会の中で、道一本が通行止となった場合にすべてがストップしてしまう紀州の現状では、企業活動に大きくリスクを考えなければならず、信用性という点でも、取り残されていくと感じる。
- ・移動が便利になれば、遠方へ出かけやすくなる為、地元の企業としては期待はなく、売上等悪い影響があるだけだと思います。

(8)自由意見

・自由回答欄に書かれた回答では、早期整備を望む意見が最も多い。

●Q8:その他、近畿自道車道紀勢線(新宮～大泊)についての意見・要望

●自由意見の抜粋

- ・在住の熊野市から医療センターを含め新宮市内の病院に通院する事が多く、急ぐ時、新宮市内、熊野川渡河部での渋滞に大変苦しめられています、災害発生時の事を含め1日も早い開通を希望します。
- ・大変雨の多い地域なので、国道42号線の通行止めが多い。台風時には、国道311号もがけ崩れが多く、国道42号以外の迂回路がない。
- ・災害避難場所を目的とするなら、集落の中心部寄りのルートがベスト(津波想定より高い位置)ただし避難誘導路必要。
- ・私達の地方は観光で来ていただいて発達して行くのがベストだと思います。その為には風光明媚な景色を、特色を、文化を大切にしたいです。
- ・インターチェンジは熊野市、御浜、紀宝、新宮に必要と思います。不便な当地方を考えると従来の高速とは少し違ってくると思います。又、緊急医療についても紀南病院への便利さも是非必要ですので当病院への近くにインターチェンジは特に必要と思います。
- ・一車線区間が長いので、渋滞緩和、緊急時を考慮し、追越し車線箇所を多くしてほしい。
- ・この辺は東海方面や大阪方面どちらに行くにも遠く、移動や物資の輸送に時間とお金がかかり、地域の発展を防ぎ過疎化を促しています。自動車道が出来た場合、料金がなるべく安くなるようお願いします。

5. 地域代表者ヒアリングの結果

(1) 熊野市、御浜町、紀宝町、新宮市の代表者の意見

- ・アンケート調査では把握できない地域住民等のニーズをきめ細かく把握し、今後の計画を検討する際に参考とすることを目的に地域代表者へのヒアリングを実施。
- ・ヒアリングは熊野市、御浜町、紀宝町、新宮市の4箇所で開催し、計59名が参加。

●ヒアリングでの意見の抜粋

【対象地域の道路の課題】

- ・鬼ヶ城トンネル周辺には迂回路がないため、以前法面崩壊により通行止めとなった時孤立した(熊野市)
- ・脳外科は新宮病院にしかなく、救命活動の上で台風や波浪等による通行止めが課題(御浜町)
- ・鬼ヶ城トンネル周辺で津波、斜面崩壊の心配が有り、崩壊した場合どこにも行けなくなる(御浜町)
- ・熊野と新宮で合わせて年間に4,000件救急車が出動しており、国道42号を利用しているが、渋滞が課題(紀宝町)
- ・渋滞が発生しており、新宮港から三重県側への荷物の搬送に困っている(新宮市)

【紀勢線が整備されることにより期待される効果】

- ・津波時に、平地部では小学校しか避難場所がないので、避難場所としての機能に期待(熊野市)
- ・昨年の台風12号で道路が破損(2箇所)したが、高速道路は復旧作業に必要(御浜町)
- ・ストロー現象対策が必要。高速道路上に地元が運営できる販売店を設けて欲しい(紀宝町)
- ・時間短縮により観光の周遊性がよくなる(新宮市)

()内は実施自治体名

【ルート検討に配慮すべき事項】

- ・早く供用して欲しいので経済的な海側案が良い(熊野市)
- ・ルートはトンネル構造が少ないほうが良い。トンネル火災が発生した場合、消火作業が困難(御浜町)
- ・当該地域は景色がすばらしい、道路からの景観に配慮して欲しい(紀宝町)
- ・異常気象時に通行止めにならないようにしてほしい(新宮市)

【IC設置検討に配慮すべき事項】

- ・トンネル火災など緊急時にも配慮して欲しい(熊野市)
- ・出口ランプが多く必要。御浜町内の3箇所が落橋した場合、高速道路にアクセスできないため、ICは多く必要(御浜町)
- ・生活道路としての利用に配慮して欲しい。特に新宮市側との連絡を考慮して熊野川付近に必要(紀宝町)
- ・一般の方が利用しやすいようにICを多く設けて欲しい(新宮市)

ヒアリング状況(熊野市)



ヒアリング状況(御浜町)



ヒアリング状況(紀宝町)



ヒアリング状況(新宮市)



5. 地域代表者ヒアリングの結果

(2) 広域的な観点からの代表者の意見

- ・アンケート調査では把握できない広域的な観点からの意見や期待を把握し、今後の計画を検討する際に参考とすることを目的に地域を代表する企業へのヒアリングを実施。
- ・ヒアリングは三重圏域、中部圏域の2視点の圏域で、各々1名と2名に実施。

●ヒアリングでの意見の抜粋

【対象地域の道路の課題】

- ・荷坂峠等の事前通行規制区間があることで、コースの選択に制限がでている。
(日本旅行業協会中部支部)
- ・台風12号時に紀宝町まで食料品等の支援を行ったが、国道42号が不通で現地到着まで大変苦労した。(日本チェーンストア協会中部支部)

【紀勢線が整備されることにより期待される効果】

- ・観光産業として高いポテンシャルを有している当該地域において、観光産業の活性化に繋がる。(日本旅行業協会中部支部)
- ・移動時間が短縮すればもう少し足を伸ばせるため、紀伊半島全域での周遊コースをくむことは十分可能と思われる。(日本旅行業協会中部支部)
- ・国道42号の代替路が確保されるため、災害時等の物資の支援に役立つ。
(日本チェーンストア協会)
- ・時間短縮により市場が広がる。(日本チェーンストア協会中部支部)

【ルート検討に配慮すべき事項】

- ・観光地に近い海側がよい。(日本旅行業協会中部支部)
- ・集落に近いルートの方であれば利便性が高い。
(日本チェーンストア協会中部支部)
- ・災害時、緊急時にも使える道路があるとありがたい。
(日本チェーンストア協会中部支部)

【IC設置検討に配慮すべき事項】

- ・災害が想定されるところにスムーズに移動ができると支援がしやすい。
(日本チェーンストア協会中部支部)
- ・集落へのアクセス・接続場所を考慮したIC配置が重要。
(日本チェーンストア協会中部支部)

【その他】

- ・事故の問題等、ドライバーの休憩の観点からも休憩施設(PA・道の駅)は必要。(日本旅行業協会中部支部)
- ・休憩施設はあったほうがいい。採算性が取れなければ簡易な休憩施設(トイレ・自販機のみ)でもあればいい。
(日本チェーンストア協会中部支部)

●市長・町長への意見照会の回答

○熊野市長

1. 東日本大震災における被害の軽減や復旧・復興に対して道路が果たした役割は非常に大きい。本地域においても住民の生命や財産、生活を守るため、近畿自動車道紀勢線(以下「紀勢線」という。)のミッシングリンクの解消は不可欠である。
2. 伊勢市や和歌山県田辺市の第三次救急医療機関(救命救急センター)、和歌山県新宮市の第二次救急医療機関への救急搬送時の確実な速達性と安全性を確保する紀勢線は、「命の道」として重要である。
3. 紀勢線の国道42号活用案については、次の理由から不相当と考える。
 - ・南海トラフ大地震に伴う津波襲来により、海岸線に沿った現国道42号の7割以上が浸水被害を受ける。
 - ・国道42号熊野川渡河部では慢性的な渋滞が発生しており、現道改築による長期間に渡る交通規制等の影響で、広域物流はもちろん地域経済への深刻な打撃が懸念される。
4. 今後、具体的なインターチェンジの設置計画や、サービスエリア・パーキングエリア・道の駅などの休憩施設の設置計画等の検討に際しては、道路築造の経済性だけでなく、地域の産業振興や観光振興の促進が図られるよう地元と情報共有を図ること。
5. 紀勢線のルート設定、構造設計に当たっては、地元住民が津波からの避難路として、また、東紀州防災拠点が活用できるよう配慮すること。

上記のとおり、紀勢線は紀伊半島南部地域の防災面のみならず、経済、物流、観光、医療等、多面的に渡り重要な路線であるため、早期に事業着手いただきたい。

○御浜町長

1. 当地域唯一の幹線道路である国道42号は、台風や集中豪雨によって、しばしば通行止めとなり、地域が孤立化する事態に陥ります。昨年9月に発生した台風12号の記録的な豪雨により、当地域でも大きな被害をもたらしました。現在も復旧に向け、全力で取り組んでいるところであります。これら地域の孤立化を防ぐため、また住民の生命、財産を守る上でも近畿自動車道紀勢線(新宮~大泊)の整備は不可欠であります。
2. 昨年の東日本大震災における被害の軽減や復旧、復興に対し、道路が大きな役割を果たしました。当地域では、近い将来発生が危惧されています東海、東南海、南海の3連動地震に対応する防災基盤の充実を図る上で、ミッシングリンクの解消は不可欠であります。
3. 緊急性、安全性を要する高度な医療施設への確実なアクセスの確保は、「命の道」として極めて重要であります。この意味合いから、インターチェンジ設置につきましては、紀南病院に近い箇所をお願いしたい。
4. 当町は、「年中みかんのとれるまち」をキャッチフレーズに、かんきつを中心とした農業を基幹産業として、町の経済を支えてきました。これら産業、経済の一層の推進を図る上でも、道路の果たす役割は大きく、近畿自動車道紀勢線は重要な道路であります。
5. 少子高齢化が急速に進んでいる当地域には、大学がなく、働く場も少ないことから、多くの若者が都市部に流出しています。近畿自動車道紀勢線は、家族間の時間的距離を短縮し、「絆」を深める道路としても必要であります。
6. 今後、具体的なインターチェンジの設置計画やサービスエリア、パーキングエリアなどの休憩施設の設置計画等の検討につきましては、道路築造の経済性だけでなく、地域の産業振興や集客交流振興が図られるよう地元との情報共有を図っていただきたい。

以上のとおり、近畿自動車道紀勢線(新宮~大泊)は、当地域の防災、経済、物流、集客交流、医療等多面的に重要な路線であるため、早期に事業着手下さいますようお願い申し上げます。

6. 市長・町長への意見照会の回答(2/2)

●市長・町長への意見照会の回答

○紀宝町長

1. 平成23年9月に襲来した台風12号は、紀伊半島南部を中心に記録的豪雨となり、各地で未曾有の大災害をもたらした。幹線道路である国号42号が各所において寸断し、被災や雨量規制による通行止めのため、当地域は孤立し、一刻を争う人命救助活動や、被災地への飲食料、復旧資材等の緊急物資輸送に大きな支障をきたした。また、近い将来に発生が予想される東海・東南海・南海地震により、海岸付近に位置する国道42号は津波により壊滅状態になることが危惧される。津波が発生した際の一時避難場所の役割を果たすべく、緊急避難階段・緊急連絡路を設置し、住民の一時避難場所として活用できる「命の道」として、近畿自動車道紀勢線の早期整備は不可欠である。
2. 熊野市、御浜町、紀宝町の年間救急出動数は約4,000件であり、そのうちの約90パーセントの搬送先が、第二次医療施設である新宮市の新宮市立医療センター、御浜町の紀南病院となっている。特に新宮市立医療センターは高次医療施設の中心的役割を担っており、一刻を争う心筋梗塞・脳疾患・心疾患は新宮市立医療センターでしか対応できないため、これらの重篤患者が搬送されているが、三重・和歌山県境である熊野川渡河部の渋滞時には、搬送に大変時間を要しており、救急搬送の確実な速達性と安全性を確保する、近畿自動車道紀勢線は、必要不可欠な路線である。
3. 近畿自動車道紀勢線の整備により、都市圏への製造品・農林水産品等の流通の利便性向上や、熊野川渡河部の渋滞解消による商品配送や移動時間のコスト削減が見込まれる。商圏の拡大につながることから、地域経済の担い手である企業の活性化に寄与するところが大きい。近畿自動車道紀勢線は、地域の産業・経済を活性化させる「自らの道」として重要である。
4. インターチェンジの設置については、災害時の輸送・避難等の防災面からも、熊野川両岸からのアクセスを可能とし、サービスエリア・パーキングエリア・道の駅等の休憩施設の設置計画の検討に際しては、産業・観光の振興が図られるよう、町内設置に向けて、地元と十分な協議を行うこと。
以上のとおり、近畿自動車道紀勢線は防災面のみならず、医療、経済、物流、観光等の多面的に渡る、未来への夢をつなぐ重要な路線であるため、早期に事業着手していただきたい。

○新宮市長

1. 当地域に災害に強い道路、時間短縮効果がある道路は必要か。
当地域の主な幹線道路としては国道42号、国道168号がありますが、通勤時の交通渋滞をはじめ、台風等の豪雨による通行止めなどにより孤立する地域となります。また、JRIにおいても単線であり京阪神方面や名古屋方面への本数も少なく、車輛での移動も最低4~5時間を要することから、災害に強い道路の必要性はもとより、高速道路の整備は当地域にとりまして、悲願であります。
2. (新宮~大泊)の整備により、期待される効果。
平成23年9月の台風12号では山間部での土砂災害や洪水による道路冠水により、長期間通行止めとなり陸路を利用する救援隊や救援物資の遅れなどが生じ、災害対応に苦慮したことから、高速道路整備は効果大である。その他、流通産業(流通商品の安定供給)の活性化、企業誘致による雇用の確保(若者の定住促進)、観光面での活性化等々衰退する地域への効果は計り知れないものがあります。また、当地域には過去に石油タンクが存在し、地域の燃料供給基地となっていました。現存していない状況の中で、高速道路の整備により燃料輸送も短時間で可能となります。
3. ルートを検討する際に、配慮すべき事項
当地域は2004年7月、「紀伊山地の霊場と熊野参詣道」として世界遺産に登録された地域であり、本市内のルートを検討する際には、用地確保の問題も考慮し、海岸線を検討する事が望ましいと考えます。ただし、近い将来に発生が懸念される「東海・東南海・南海地震」では当市沿岸部に襲来する最大津波高は12.2mとされていることから、この津波に耐えられるだけの強度と高さが必要となります。また、津波からの一時避難場所として活用できるよう、避難階段等を設置する必要がある。なお、車輛の通行に支障のないよう退避場所の確保も必要である。
4. インターチェンジ設置に関し、配慮すべき事項
海岸線を選択した場合、幹線道路である国道42号から海岸方面へ延びるルートを利用した地点に設置する事が1案であり、その他、市街地からアクセスしやすい箇所への設置、インターチェンジ付近の混雑を避ける箇所の検討も必要と考えます。
5. 当地域の道路(主に国道42号)についての現状・課題
当市を横断する国道42号線は信号機が多く、通勤時や帰宅時、またゴールデンウィークや年末にかけての帰省客、観光客等の車輛による渋滞が著しく、非常に混雑する区間となっている。したがって、この渋滞を緩和するためにも高速道路の整備は重要である。

●知事への意見照会の回答

○三重県知事

近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)における中部地方整備局及び近畿地方整備局としての対応方針(案)については、本県としては同意します。

近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)は、東紀州地域の振興、台風による豪雨や東海・東南海・南海地震などの災害発生時の救援、復旧、復興や、緊急医療において地域の生命を支える「新たな命の道」として重要な路線であることから、当該事業の早期事業化をお願いします。

○和歌山県知事

近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)における対応方針については、【案1】海側ルートで進めることに同意します。

つきましては、県民の将来のチャンスを保障するため、また、東海・東南海・南海地震への備えとしても、一日も早い近畿自動車道紀勢線のミッシングリンクの結合が不可欠であり、平成25年度事業化されますよう、特段のご配慮をお願いします。

また、具体の道路構造の検討に際しては、利用しやすいインターチェンジ配置、防災機能の観点から緊急出入り口の設置、及び周辺環境など十分配慮願います。

8. アンケートの結果報告(速報版)

7/27以降、①WEBにチラシを掲載、②各市町からチラシを配布、により地域へアンケート結果を周知した。

アンケートへのご協力をありがとうございました ～新宮～大泊間の道路計画に関する意見募集アンケートの結果報告～

国土交通省紀勢国道事務所・紀南河川国道事務所 三重県 和歌山県 熊野市 御浜町 紀宝町 新宮市

ホームページ <http://www.cbr.mlit.go.jp/kisei/kiseisen/index.html> 紀勢国道 検索

近畿自動車道紀勢線 新宮～大泊間について、道路計画の検討を進めています。平成24年6～7月に実施したアンケートでは、皆様から約10,000件のご意見をいただき、誠にありがとうございました。この度、アンケート結果がまとまりましたので、ご報告をさせていただきます。今後、皆様からいただいたご意見を踏まえて第三者委員会で審議し、ルート帯を決定してまいります。

●ルート帯概要



●アンケート調査結果の概要(速報)

実施項目	実施期間	回答方法	実施概要	回答状況
地域住民アンケート	平成24年 6月16日(土) ～7月1日(日)	①郵送回収	無作為抽出9,747世帯への郵送配布・回収	回答数:5,019 (回収率51%)
		②投函BOXによる回収	各市役所・町役場等に投函BOXの設置	回答数:1,527
合計回答数:6,546				
道路利用者アンケート	平成24年 6月23日(土) ～7月1日(日)	①インターネットでの回答	WEBモニター会を対象としたWEBアンケートを実施	回答数:725
		②道の駅での聞き取りアンケート	道の駅(熊野きのくにパーク七里御浜・紀宝町ウミガメ公園)で聞き取りアンケートを実施	回答数:320
合計回答数:1,045				
事業所・トラック協会会員企業アンケート	平成24年 6月16日(土) ～7月1日(日)	郵送回収	三重県熊野市、御浜町、紀宝町、和歌山県新宮市の全事業所(約3,092事業所)への郵送配布・回収	回答数:1,589 (回収率51%)
			三重県・和歌山県トラック協会会員企業(約940事業所)への郵送配布・回収	回答数:427 (回収率45%)
合計回答数:2,016				

アンケート結果に関するお問い合わせ 受付時間 平日9:00～17:00

国土交通省 中部地方整備局 紀勢国道事務所 調査設計課 TEL 0598-52-5365 FAX 0598-51-2085
 国土交通省 近畿地方整備局 紀南河川国道事務所 調査第二課 TEL 0739-22-4814 FAX 0739-22-4574
 MAIL oubo@kisei.go.jp MAIL obo@kisei.go.jp

アンケート結果のご報告 回答数:9,607回答

質問1 対象道路の現況と課題について
対象道路の現況について、あなたはどう感じられますか?

①台風や豪雨等の災害時に地区が孤立することに不安を感じる 全体の約9割 (95%)

②災害時に国道42号の代わりとなる道路が無く、不安を感じる 全体の約9割 (92%)

③高度な治療ができる病院が遠く、重病になった時、不安を感じる 全体の約9割 (91%)

④高速道路が無く、移動に時間がかかる 全体の約9割 (91%)

⑤新宮市内、熊野川渡河部で渋滞が著しい 全体の約9割 (88%)

※「全ての設問に対して、「そう思う」「ややそう思う」が全体の9割の回答となった」「自由意見としては、早期整備を望む意見が多い」

質問2 近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)の必要性について
災害に強く時間短縮効果のある道路は必要だと感じますか?

全体の約9割 (93%)

※「全ての設問に対して、「そう思う」「ややそう思う」が全体の9割以上の回答となった」「自由意見としては、早期整備に配慮すべきとの意見が多い」

質問3 近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)の効果について
紀勢線新宮～大泊が開通することにより期待される効果として、あなたはどう感じられますか?

①災害発生時に物資の輸送や復旧するための道路として機能する 全体の約9割 (92%)

②津波発生時に高台への避難場所として機能する 全体の約9割 (88%)

③通行止めの時に国道42号の代わりとなる道路が確保される 全体の約9割 (88%)

④高度な治療ができる病院への搬送時間が短縮され、救命率の向上が期待される 全体の約9割 (88%)

⑤所要時間が短縮され、スムーズに移動できる 全体の約9割 (84%)

※「全ての設問に対して、「そう思う」「ややそう思う」が全体の9割の回答となった」「自由意見としては、所要時間の短縮が期待される効果として意見が多い」

質問4 近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)のルート検討に配慮すべきこと
紀勢線新宮～大泊のルートを検討する際に、どのようなことに配慮すべきだと感じられますか?

①災害時に物資の輸送や復旧するための道路として利用できること 全体の約9割 (91%)

②津波発生時に高台への避難場所として利用できること 全体の約9割 (89%)

③スムーズに移動できること 全体の約9割 (88%)

④自然環境への影響が小さいこと 全体の約8割 (82%)

⑤歴史的・文化的遺産(景観)への影響が小さいこと 全体の約8割 (81%)

⑥早く開通できること 全体の約7割 (71%)

⑦整備費用を小さくすること 全体の約7割 (71%)

※「全ての設問に対して、「そう思う」「ややそう思う」が全体の7割以上の回答となった」「自由意見としては、早期整備に配慮すべきとの意見が多い」

質問5 近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)のIC配置検討に配慮すべきこと
紀勢線新宮～大泊のIC配置を検討する際に、どのようなことに配慮すべきだと感じられますか?

①主要な道路に取り付いていること 全体の約9割 (90%)

②市街地に近いところ 全体の約7割 (71%)

③病院・消防署に近いところ 全体の約8割 (81%)

④国道42号にできるだけ近いところ 全体の約7割 (71%)

⑤市役所や町役場に近しいところ 全体の約6割 (61%)

※「①主要な道路に取り付いていること、②市街地に近いところ、③病院・消防署に近いところ、④国道42号に近いところ、に対して「そう思う」「ややそう思う」が全体の9割以上の回答となった」「⑤市役所や町役場に近しいところ、に対して「そう思う」「ややそう思う」が全体の9割の回答となった」「自由意見としては、災害に配慮すべきとの意見が多い」

質問6 近畿自動車道紀勢線(新宮～大泊)が整備された場合の来訪状況について
(対象は道路利用者(Webアンケート道の駅での重要施設)のみ)
紀勢線新宮～大泊が開通された場合、対象地域への来訪を望むかと思いませんか?

①来訪回数 全体の約7割 (71%)

②来訪を増やすときの目的 全体の約9割 (91%)

③増えると思う理由 全体の約9割 (91%)

※「来訪回数が増えると思う人が多い」「来訪を増やすときの目的(レジャー)が多い」「増えると思う理由は「所要時間が短縮される」が多い」